

(別紙 15)

山形県におけるクマ類出没防止対策の実施に係る計画/評価報告
(出没防止対策事業) ③

1 事業実施地域周辺の現状の出没・被害状況、出没防止対策の実施状況及び課題等

	R3	R4	R5	R6	R7
目撃件数	291	376	765	348	3,079
人身被害人数	0	2	5	3	13

令和7年は目撃件数、人身被害ともに大幅に増加した。クマが指定管理鳥獣となった令和6年度から、環境整備等の出没防止対策を行っているなかでの大幅増加となっており、さらなる出没防止対策が必要となっている。

人家周辺の目撃も増加しており、見回りを行い、必要に応じて近隣住民への注意喚起を行っていくことが必要。

2 出没防止対策の具体的な内容

実施時期	令和7年11月～令和8年3月
場所	県内全域
目的・目標	人身被害の防止
内容	見回り活動
方法	鳥獣保護管理員による見回り
評価方法	人身被害件数
事業費とその算出方法	634,608円(鳥獣保護管理員の報酬をもとに算出)
備考	

注1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。出没防止対策が複数ある場合は、対策の種類毎に各項目を記載すること。

注2：実施主体が市町村の場合、各市町村の実施する具体的な内容を記述すること。

注3：誘引物の除去及び緩衝帯の整備を実施する場合は、過去の本交付金の活用状況について備考欄に記載すること

3 実施した出没防止対策の評価(事業終了後の評価報告時のみ)

各総合支庁環境課鳥獣保護管理員によるクマ出没パトロール活動を強化した。
痕跡確認、市町村有害捕獲出動、花火での追払活動等、市街地出没及び人身被害防

止対策に一定の効果が確認できた。

注1：当初予定されていたとおり事業が適切に実施されたか記載すること。

注2：事業実施地域ごとに、事業実施前後の被害指標（出没件数、被害件数、被害感等）を比較し、事業実施の効果が事業実施地域に現れているか評価すること（定量的な指標が難しければ、客観性を確保した定性的な指標を使用する。）。なお、事業効果の比較は同じ季節に行うことが望ましく、当該年度内での事業実施後の効果の確認が難しい場合は、次年度の実施とする旨記載すること。

注3：注1による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。

4 その他

注1：出没防止対策の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。